
信号無視の男

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

信号無視の男

【Nコード】

N1903D

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

ひよんなことから、信号無視に命をかける男がいた。

その男は急いでいました。

だから信号など待っていられなかったのです。

彼は信号が青になるのも待たず走りました。

幸いにも、車には轢かれませんでした。

しかし、信号を渡った直後、彼の腹に突然穴が空きました。

彼は通り魔に刺されてしまったのです。

それから五カ月後のこと。

男はまた急いでいました。

もう信号無視することは、怖くて出来ませんでした。

でも他の人間はさも当たり前前に赤信号を悠々と渡っていました。

自分だけ交通規則を守っているのが馬鹿馬鹿しくなってしまった彼は、それに駆られて赤信号を渡りました。

彼も、二度と同じ失敗は踏むはずがないと思って、赤信号を渡りました。

幸いにも、車には轢かれませんでした。

今度は通り魔にも襲われませんでした。

しかし、渡った先にあつたビルから、老朽化した巨大な看板が男目掛けて落ちてきました。

全身を骨折しながらもなんとか命は助かりましたが、彼は片足をなくしてしまいました。

それから五年後のこと。

男は懲りずに急いでいました。

相変わらず周りの人間は何食わぬ顔で信号を無視していました。

腹が立つた男は、今度こそそんなドジを踏むものかと、また赤信号を渡りました。

自分だけ渡れないなんて、不公平な世の中で生きていくのが、彼は嫌だったので渡りました。

三度目の正直なんてハツタリだ、と考えて彼は何の迷いも無く渡りました。

幸いにも、車には轢かれませんでした。

今度は通り魔にも襲われませんでした。

渡った先には、看板などそもそも存在していなかったので落ちてきませんでした。

しかし、渡った直後、空からヘリコプターが墜落してきました。

爆風で吹き飛ばされた男は、五年間も意識不明になってしまいました。だが、奇跡的に一命を取り留めました。

ちなみにパイロットは無事でした。

それから二十年後のこと。

男は飽きもせずに急いでいました。

十年経つても二十年経つても、信号を渡る人間は全く変わっていませんでした。

男の意識も全く変わっていませんでした。

もはや信号無視は彼の生き甲斐となっていました。

この日のために、自分は今まで生きてきた、と彼は常々豪語していました。

絶対に信号無視を成功させてみせると、彼はこの信号無視に命を賭けていました。

信号が赤になりました、彼は信号を無視して渡りました。

彼は車に轢かれてしまいました。

車はトラックだったため、もう助からないと言われるほど全身物凄い怪我をしましたが、彼はまた奇跡的に復活しました。

それから三十年後のこと。

男はいつも通り急いでいました。

まるで日本の伝統のように、人々は平然と信号無視をしていましたるそんな人間達を尻目に、男はガクガクと脚を震わせながらあの信号へやってきました。

家族達も後ろで真剣に見守っています。

もう彼を止められるものは何もありません、全ては彼を信号無視させるために動いていました。

家族達は、それぞれ男と抱擁しあい、男の夢の達成を願いました。そして、ついにその時間はやってきました。

男は赤信号を無視して、一步一步ゆっくりと渡りました。

幸いにも、車には轢かれませんでした。

今度は通り魔にも襲われませんでした。

渡った先には、看板などそもそも存在していなかったので落ちてきませんでした。

空からヘリコプターが墜落してくるという珍事も、二度目は起きませんでした。

男は赤信号を渡りきりました、彼を阻むものは何もありませんでした。

ついに男は、家族達の前で念願の夢を叶えました。

「やったぞ、信号無視を、ついにしてやったぞー！ー！」

しかし、その瞬間、男は心臓麻痺を起こしてその場で死んでしまいました。

それから、何故か日本では誰も信号無視をしなくなりました。

（後書き）

ショートショートの広場を読んで感銘をつけ、衝動的に書いた作品。今まで投稿した中では一番油がのっついて「安定」した作品だとは思いますが。SSとしては初めての作品。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1903d/>

信号無視の男

2010年12月28日02時29分発行